

第 50 号

令和 5 年 9 月 29 日(金)

教育情報紙

発行：島根県教育委員会

(教育指導課)

TEL：0852-22-6867

Mail：shidou@pref.shimane.lg.jp

令和 5 年度 全国学力・学習状況調査結果の活用に向けて

島根県教育センター所長
島根県教育センター浜田教育センター長
大場 尚樹

令和 5 年度全国学力・学習状況調査については、去る 7 月 31 日に本県の結果概要を公表しました。各市町村教育委員会、各学校におかれましては、夏の間には結果の確認・分析を実施されたのではないかと思います。島根県教育センターにおいては、今年度も「学校用分析補助シート」を作成し、島根県教育用ポータルサイトに掲載しておりますが、ご活用いただいているでしょうか。

ご存じのとおり、本調査の目的は、教育施策の成果と課題を分析して改善を図ること、各学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てることにあります。「教科に関する調査」の各問題は、学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問い、そこには「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージが込められています。調査の対象学年の一人一人の解答状況（どこでつまづいているのか）等に注目して、どのように学習指導の改善・充実を図るかが、教員の腕の見せ所です。メッセージの込められた各問題を、校内研修等で取り上げることで、全学年を通じた学習指導の改善・充実の参考にさせていただきたいと思います。併せて「質問紙調査」を含めた結果の活用をカリキュラム・マネジメントに位置付け、課題の解決等に生かしていただければと思います。

「令和 5 年度 全国学力・学習状況調査の結果（概要）」(国立教育政策研究所 Web サイト掲載)によれば、「先生がよいところを認めてくれる」と回答している児童生徒ほど、「自分にはよいところがあると思う」と回答する傾向が見られますが、この傾向は本県も同様に見られます。この結果は、教員が一人一人の子どもをまるごと受け止め、折に触れて、よさや努力の様子等を子ども本人や周囲に伝えていくことの大切さを物語っています。

また、「授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間になっていた」と回答している児童生徒ほど、「学校に行くのが楽しい」と回答する傾向が見られます。この傾向も本県と合致しています。教員が、子どもの特性や興味・関心等の実態を具に把握するとともに、時に協働して具体的な手立てや工夫を講じることによって、「なるほど」「面白い」「わかった」「もっとやってみたい」という実感が積み重なり、子どもの充実感や幸福感の高まりにつながっていくのだと思います。

忙しい中ではありますが、全国学力・学習状況調査結果の活用を契機として、目の前の子どもたち一人一人に対して、教育の根底にあるべき「当たり前に関わり」ができていくのかどうか、改めて振り返ってみてはいかがでしょうか。

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果分析

4月18日に実施した全国学力・学習状況調査の結果について分析した「令和5年度全国学力・学習状況調査島根県（公立）の結果概要」を、教育指導課 Web サイトと、しまねの教育情報 Web (EIOS) に掲載しています。Web サイトでダウンロードしていただき、各校での分析や教育活動の改善に役立てていただければ幸いです。

また、「全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえた授業改善動画」を近日中にしまねの教育情報 Web (EIOS) にアップします。ぜひご活用ください。



<結果概要ダイジェスト>

1 教科に関する調査結果の概要

(1) 結果の概要

- ① 中学校国語においては、全国平均並みであった。
- ② 小学校国語、算数、中学校数学、英語においては、全国平均を下回った。

< 島根県と全国の平均正答率とその差 >

【小学校】

	平均正答率 (%)		
	島根県	全 国	差
国語	65	67.2	-2.2
算数	59	62.5	-3.5

【中学校】

	平均正答率 (%)		
	島根県	全 国	差
国語	70	69.8	0.2
数学	48	51.0	-3.0
英語	40	45.6	-5.6

< 前回調査と令和5年度調査の各教科の平均正答率の差の比較 >

【小学校】

	正答率全国との差	
	前回	R5
国語	-1.6	-2.2
算数	-2.2	-3.5

【中学校】

	正答率全国との差	
	前回	R5
国語	0	0.2
数学	-2.4	-3.0
英語	-3.0	-5.6

英語は、令和元年度実施のデータより作成

(2) 各教科の分析 (○成果、△課題)

① 小学校国語

- 日常生活と関連が強い漢字や敬語については、おおむね理解が進んでいる。
- 指定された文字数や条件で書くことについては、やや改善が見られる。
- △資料となる複数の情報を関連付けて、自分の考えを表現することに課題がみられる。
- △多くの資料を読み取り、そこから必要な情報を取り出す力が弱い。特に文章で表現された内容の読み取りが不十分である。

【授業改善のポイント】

- ・「書くこと」において、情報を整理し、関連付けたことを、指定された条件で作文する学習を充実する。
- ・「読むこと」において、関連のある情報を整理したり、必要な情報を取り出したりする活動を学習に取り入れる。

② 小学校算数

- 式が示された計算問題は正しく計算することができる。
- 示された図形の名称について正しく答えることができる。
- △日常生活の場面の数量の関係に着目し、伴って変わる2つの数量の関係について考察することに課題がある。(下に調査問題掲載)
- △図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や計量などについて考察することに課題がある。

【授業改善のポイント】

- ・変化の特徴を考察して規則性を見付けることができるようにする。さらに、見付けた規則性を基に、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるような活動を設定する。
- ・図形を構成する要素や構成する要素の間関係に着目して、既習の考えや経験を基に面積の求め方を考えたり、公式をつくったりする過程を重視する。

- (3) いす4きゃくの重さをはかると、7 kgでした。
このいす48きゃくの重さは、何kgですか。
求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、
答えも書きましょう。



問題番号
1(3)
平均正答率
島根県 48.7%
全国 55.5%
みなさんの学
校の状況はど
うでしたか。

③ 中学校国語

- 既習の漢字の読み書き、歴史的仮名遣いの理解に改善が見られる。
- 自分の考えをまとめた分量の文章として書くことに改善が見られる。
- △複数の資料を比較して情報と情報との関係を捉えること、それをもとに自分の考えを形成して文章を書くことに課題がある。
- △表現の効果について、観点を明確にして文章を比較したり根拠を明確にして文章を書いたりすることに課題がある。

【授業改善のポイント】

- ・複数の資料を比較して情報と情報との関係を捉えたり、捉えた情報をもとに考えを形成し表現したりする学習の充実を図る。
- ・「読むこと」において、文章を批判的に読み取り吟味する中で、観点を明確にして表現の効果について考え、話したり書いたりして表現する活動を設定する。

④ 中学校数学

- 「関数」の基本的な知識・技能について改善がみられた。
- 「データの活用」の数学的な表現を用いた説明ができています。
- △「数と式」の数に関する基本的な意味及び概念の理解に課題がみられる。
- △「図形」の基本的な性質についての理解に課題がみられる。

【授業改善のポイント】

- ・自然数の意味理解や数の概念の理解を深めることができる指導をするとともに自然数や整数などの数の概念について、学び直しの機会を設定する。
- ・身の回りにある事象を図形として捉えて考察することを通して、空間における平面について理解を深められるように指導する。

⑤ 中学校英語

- 道案内等の内容については、具体的な場面を設定して言語活動を行うことが多く、生徒の理解につながっている。
- 短い文章を読んで、最も大切な語句や文を選んだり、段落内の文章の構成を把握したりするような「読むこと」の指導が行われていると考えられる。
- △情報を正確に聞き取る技能に課題がある。
- △文構造や文法事項、言語の働きなどの知識を活用し、正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に書くことに課題がある。

【授業改善のポイント】

- ・学習者用デジタル教科書で、英語独特のリズムやイントネーション、語と語の連結による音の変化等を聞く時間を確保する。その際に、聞く箇所、速度、回数などを生徒が選択し、自己調整しながら主体的に学習できるようにする。
- ・書いた英文が相手に正しく伝わるかどうかについて、ペアやグループで正確な英文に書き直す活動を行う。

2 児童生徒質問紙・学校質問紙調査結果の概要

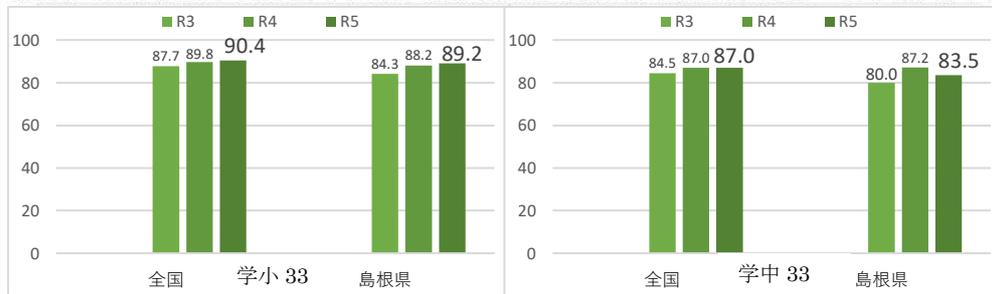
「しまねの学力育成推進プラン」の3つの柱（授業の質の充実・家庭学習の充実・地域に関わる学習の充実）に関わる取組についてまとめました。

（1）授業の質の充実

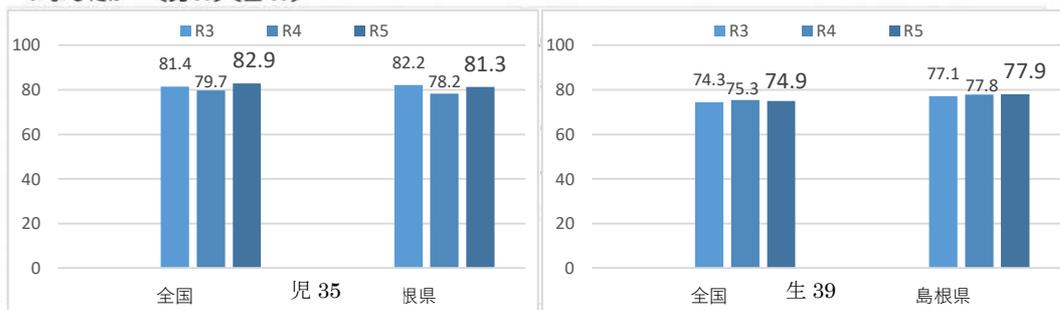
- ①小学校では、目的を明確にした対話的な学習が展開される割合が増えている。児童生徒が自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる場が十分に設定されていると考えられる。
- ②授業において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動が工夫されており、多くの児童生徒がそれを実感している。
- ③現行の学習指導要領では、カリキュラム・マネジメントが求められているが、各教科の学びを様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設ける割合が減少している。

[]は質問番号

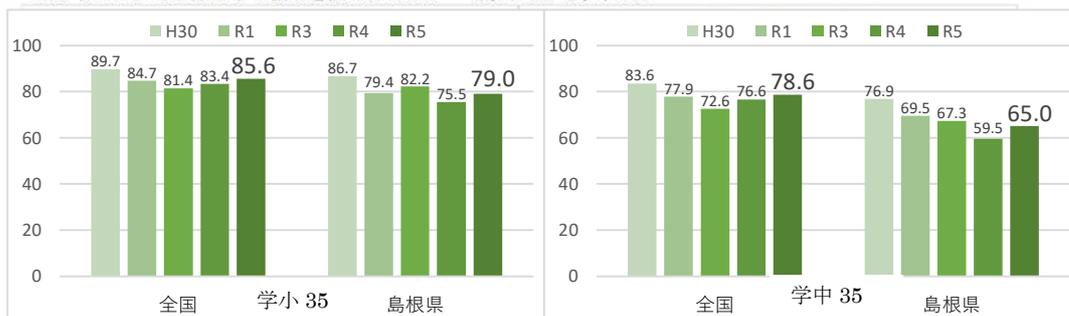
①調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか 【学小33】【学中33】



④5年生までに〔1、2年生のときに〕受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか 【児35】【生39】



⑤調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか 【学小35】【学中35】



【各学校における取組の重点】

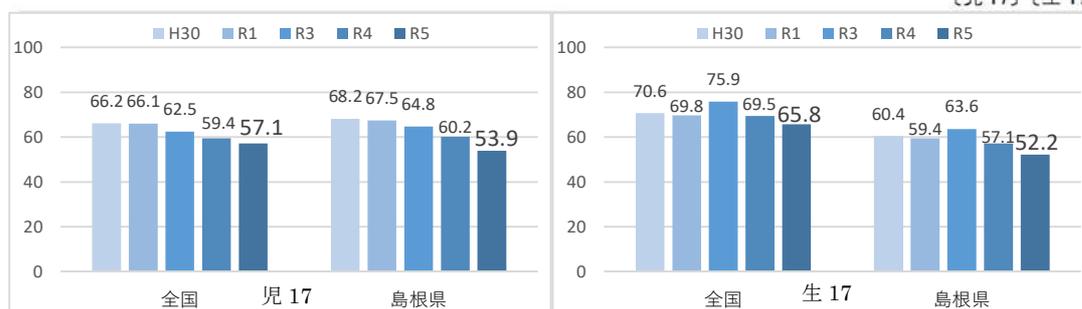
- ・自分の考えを語尾までしっかりと話すこと（説明すること）、書くことを繰り返し指導する。
- ・話し合い場面において、「自分の考えを深めたり、広げたりすること」「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表すること」等を具体的に指導する。
- ・「調べる場面」「考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士がやり取りする場面」「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」などで1人1台端末を日常的に活用する。

(2) 家庭学習の充実

- ①学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は昨年度よりも低くなった。特に、中学校では依然として全国値との差が大きい。
- ②「家で自分で計画を立てて勉強している」と答えた割合は児童生徒ともに全国値よりも高い。また、平日に学習を「全くしない」と答えた割合は全国よりも低い値となっている。
- 休日においては、児童生徒ともに1日1時間以上勉強する割合が全国値を上回っている。

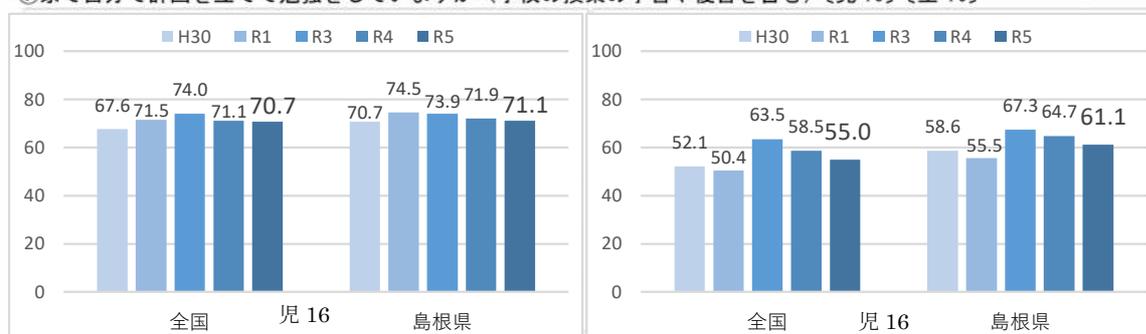
⑧学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

【児17】【生17】



※1時間以上勉強している割合

⑨家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）【児16】【生16】



【各学校における取組の重点】

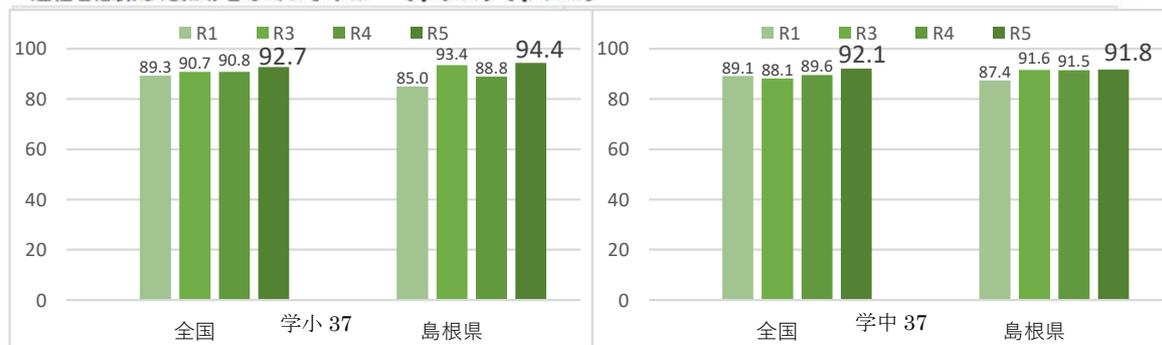
- ・家庭学習について教職員同士が共通理解を図り、家庭での学習方法について具体例を挙げながら指導する。

(3) 地域に関わる学習の充実

①学校では、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導が十分に展開されていると考えられる。

②「今住んでいる地域の行事に参加していますか」について、児童生徒とも全国値を上回っている。

⑨調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか 〔学小37〕〔学中37〕



【各学校における取組の重点】

- ・昨年度発行した「総合的な学習の時間ガイドブック」を活用し、「児童生徒の思考の流れに沿った探究活動が行われるような授業づくり」を行う。

3 今後の取組

今後も県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協力し、全国学力・学習状況調査及び県学力調査結果分析に基づいた指導の改善を「しまねの学力育成推進プラン」の3つの柱に基づいて推進していきます。

○授業の質の充実

全国学力・学習状況調査等の各種調査の分析を参考にし、各教科等の連携を図りながら組織的かつ計画的に授業の質を充実させる。

- ・自分の考えを語尾までしっかりと話すこと(説明すること)、書くことを繰り返し指導する。
- ・話し合い場面において、「自分の考えを深めたり、広げたりすること」「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表すること」等を具体的に指導する。
- ・「調べる場面」「考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士がやり取りする場面」「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」などで1人1台端末を日常的に活用する。
- ・児童生徒が身につける資質・能力を明確にした授業を行うとともに、校区の小中学校においては育てたい子ども像などを共有する取組を一層進める。

○家庭学習の充実

家庭学習と授業との有機的な結びつきを図るとともに、児童生徒が自分に合った学習方法を見いだすことができるよう、教員の指導改善や児童生徒の学習改善を行う。

- ・「教育情報誌第 49 号（令和 5 年 3 月）」等を活用し、授業を家庭学習につなぐ具体的な指導について教員が共通理解をする。
- ・学習内容を定着させる宿題だけではなく、自分にあった学習内容や方法を選んだり、学びを広げたり生かしたりできるよう、1人1台端末を活用した家庭学習の在り方の研究をする。

○地域に関わる学習の充実

児童生徒一人一人が自ら課題を見付け、解決への道筋を見通しながら様々な解決方法を考える姿勢を育成する。

- ・「総合的な学習の時間ガイドブック」を活用し、「児童生徒の思考の流れに沿った探究活動が行われるような授業」を行う。
- ・地域素材の効果的な活用と、各教科等で身に付けた知識や技能を地域や社会での生活に生かそうとする意欲の醸成を行う。

また、「しまねの学力育成推進プラン」の3つの柱の中の「授業の質の充実」のために、各学校で活用していただけるよう、次のオンデマンド研修資料を作成・掲載します。ぜひご活用ください。

- 「全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえた授業改善動画」のしまねの教育情報 Web (EIOS) へ掲載予定

※国語、算数・数学、英語の授業づくりのポイントの説明（各校種 1 教科約 5 分程度）

結果概要掲載サイト

- 教育指導課 Web サイト

https://www.pref.shimane.lg.jp/education/kyoiku/ikusei/chosa/zenkoku_gakuryoku.html

- しまねの教育情報 Web (EIOS)

<http://EIOShimane.jp/ability-research/>

